

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 山 田 洋 介

	主査	教授	田 中 伸 哉
審査担当者	副査	教授	秋 田 弘 俊
	副査	准教授	濱 田 淳 一
	副査	教授	佐 邊 壽 孝
	副査	教授	松 野 吉 宏

学 位 論 文 題 名

免疫組織化学によるヒト稀少腫瘍の特性解明と病理診断への寄与

本研究は、発症頻度が低いことが一因となって解析が進まず、本態が未だ十分には明らかになっていない 2 つの腫瘍 (群) に対し、免疫組織化学的解析が、その特性解明や病理診断に寄与することを実証したものである。第一章では、胸腺上皮性腫瘍の特性解明と病理診断に対して、胸腺プロテアソームサブユニット $\beta 5t$ の発現解析が果たす役割を明らかにした研究を提示した。第二章では、高齢者の小腸腫瘍に対して、網羅的な免疫形質の発現解析と分子生物学的手法を用い、T 細胞性マーカーを異常発現した follicular dendritic cell sarcoma (濾胞樹状細胞肉腫。FDC sarcoma) との診断を下し、本腫瘍ではこれまでに未報告であった形質発現を見出し、本腫瘍や鑑別診断となる腫瘍に対するピットフォールとしての意義を果たした症例報告研究を提示した。

発表後、副査の濱田准教授および秋田教授より、胸腺皮質上皮細胞および B 型胸腺腫の腫瘍細胞に heterogeneity が存在する可能性について、濱田准教授より B3 型胸腺腫と胸腺癌の治療方針の違いについて、副査の佐邊教授より $\beta 5t$ の発現と予後との関連について質問があった。さらに、秋田教授より $\beta 5t$ の発現が腫瘍の発生母地の推察に果たす役割について、秋田教授および主査の田中教授より非胸腺上皮性腫瘍での $\beta 5t$ の発現について、田中教授より免疫組織化学の判定基準について、副査の松野教授より今後の研究のアプローチ方法に関して、それぞれ質問がなされた。いずれの質問に対しても、申請者は実際のデータや文献的考察に基づいて妥当な回答をした。

本研究は、従来解析的アプローチの難しかったこれらヒト稀少腫瘍に対して、機能的分子や形質発現を免疫組織化学的に解析することにより疾患本態の理解を深めるために大きく貢献したと認められる。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院過程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。